

四角いもの、丸いもの。長いもの、短いもの。
黒、白、赤、緑みんなラクリッツ



詰めて、計って、包む



昔ながらの量り売り



その他のおすすめ

- 151 ▶ Süssholz
- 163 ▶ Schlickertüte
- 165 ▶ Wrangel Apotheke

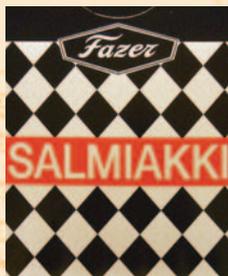
ウォー! 僕はオオカミの遠吠えのような声を上げ、鼻をクンクンさせる。急に嗅覚がはたらき始め、グレーフェ通りにたどり着くと僕の鼻は震える。やっと「カド」の看板が見えた! この店で、僕のラクリッツへの思いが収まるのだ。

僕の視線はラクリッツが詰まったたくさんのガラスケースを追う。ビターな「クロコダイルの涙」、外が甘く中に辛い液体が入った洗練された栗の形のトルコのラクリッツ、アイスホッケーのバックを模したフィンランドのエキゾチックでさわやかなラクリッツを味見してみる。

家やコイン、組み合わせ鍵、船乗りの笛、ピアノの鍵盤。それとも猫、アシカ、カモメ、貝、魚、豚、あるいは美味しいバニラ味のクモや、スウェーデン産の詰め物が入ったカエル。マイルド味のラクリッツ、香りの強いもの、ビターそれとも辛口。どんな好みにもこたえてくれる。アニス、シナモン、ユーカリそれともジンジャー風味、塩辛い方が甘い方かと聞かれたら、にっこり笑って「全部入ったラクリッツの盛り合わせを一袋。それから昔ながらの熊の糞もください」と答えればいだろう。

こうして僕は子ども時代を思い出し、幸せな気分になるまで!

「カド」という店名はオランダ語で「プレゼント」という意味。ベルリンで最初のラクリッツ専門店として1997年に開店した。



フィンランドのラクリッツ

Lakritze

ラクリッツ: ドイツの伝統的なお菓子

L

買う

Kadó

カド

Graefestraße 75
Kreuzberg

U Schönleinstraße

030-6904 1638
info@kado.de
www.kado.de
berlin-a-z.info/06_077



Gerhard Drexel

脚本家、トラベルライター

1995年からベルリン在住。子どもの頃、お祭りでは必ずラクリッツの店に行っていた。私はこの街で「カド」を見つけて以来、もうこの店の虜だ。